

～愛知県からの1ターン

矢口明さんへの

インタビュー

- 職業：無職
- 家族構成：夫婦
- 移住歴：1年半
- 松阪市の面白い所
道の駅「飯高駅」に温泉がある



「孫も大きくなってきたし、そろそろ夫婦二人でのんびり暮らそうと思っただ」そう語る矢口 明さんは、愛知県で娘夫婦と同居していた。

テレビ番組で空き家バンクを知り、全国の空き家バンクを調べるために本屋にも通った。飯高に興味湧き、何度か足を運び見学した内の一件が目にとまり移住することにした。娘夫婦の住む名古屋に近いこと、飯高は冬もそれほど雪が降らないことも決め手となった。移住計画を娘に話すと「なんでスーパーや病院もない田舎にいつちやうの」と言われたが、思いは変わらなかった。

移住しようと思ってから四カ月、初めての田舎暮らしも一年以上経ち、その経験から物件探しをしている人に伝えたいこととして、「もう少し若い時に引越してくれば良かったと思う時がある。若い人は将来的に修繕して住めるので物件購入でも良いが、年配には賃貸のほうが良いかな。」と語る。



『気楽にのんびりと花を育てる生活』

都会暮らしから田舎暮らしに生活環境が変わったことによる苦労や不安もあり「スーパーなどの買い物施設が少なく、松阪市内へまとめ買いに出ているのが大変だ。妻が車を運転できないので自分が運転出来なくなった時に遠方へ行くことが出来ないので心配だ」と心情を吐露する。

「移住による大きな変化は、時間に追われることがなくなったこと」という矢口さん夫妻は、気楽に家を改修しながらのんびりと花を育てる生活を送っている。以前の住まいでも花は育てていたが、こちらではゆつたりとした時間の流れのためか趣が違いうようだ。

最後に松阪市の良い所を伺うと、「まず、道の駅「飯高駅」に温泉があることにびっくりした。大変珍しいと思う。また、地元の人には当たり前のことかもしれないが、地域の人たちが暖かい。何十年も一緒に暮らしていたような錯覚を覚えるほど、気さくで気

取らない人が多く気持ちいい付き合いのできる環境が気に入っている。一週間も住めば良さがわかるよ。」そう話す矢口さんは、新しい町の仲間として、都会とは違う経験ばかりの田舎暮らしを今日も楽しむ。



いいたかの湯